

「山王中学校生徒指導通信」～「志」が宿り、「いかに生きるか」を考えるために～

『命の山王』

No. 11 [2018年 6月22日(金)]

勝負は常に紙一重

今年の市中総体が終わりました。終わってからまだ1週間も経っていないのですが、始めに行われた開会式などは、ずいぶん昔のここのように感じられます。それだけ中総体の3日間は、濃くそして充実した時間を過ごしたことになると思います。

開会式は天候にも恵まれて、素晴らしい式典となりました。国旗や大会旗を保持したメンバーから始まり、山王中選手団の入場行進の頑張り、一斉エールの澤木君の掛け声などなど、とにかく山王中の活躍する姿があちこちに見られました。

各部の健闘ぶりは後でまとめてお伝えしたいと思いますが、どの部も本当によく頑張りました。それは全県大会へ出場する団体・個人の数の多さを見ても分かると思います。しかし、全県に出られなかったとしても、初戦で敗退してしまったとしても、それぞれが力を尽くしたのだとすれば、そこに価値があると思います。そして悔しさが残っている部分があるとするれば、それを何かの次の目標へのエネルギーに変えてほしいです。さらに、試合に出た選手だけではなく、それを影ながら支えたメンバー、試合会場で声をからして応援し続けた、応援団もまた充実した3日間を過ごしたと思います。

その上で、私の頭の中に残っているものは「勝負は紙一重」という言葉です。今回、私は吹奏楽部と共に、ソフトボール部、男女バスケットボール部、野球部、そしてサッカー一部の応援をしました。どの試合も熱戦で、どちらが勝ってもおかしくない試合ばかりでした。例え点差が開いた試合だったとしても、その差は僅かなもだったと感じていました。

私はスポーツについては素人なので間違っているかもしれませんが、どの試合もたった1つのプレーや小さなミスが、勝負を分けていたように思いました。団体種目であっても、1人の選手の粘りがその後の逆転につながったり、冷静な判断が試合展開を有利に進めたりしていました。

しかし「紙一重」は試合中だけのことではないと思います。普段の練習中でも、常に「紙一重」は存在しています。苦しい練習を乗り越えられるか、練習の意味を考えているか、言われてからではなく自分から努力しているか、このような「紙一重」を乗り越えることで、本番の大会で力を発揮できるのだと思うのです。

今年の市中総体は終わりましたが、これからも「紙一重」を感じる時はたくさんあるはずです。もちろん部活動やスポーツの世界だけではなく、どんな場面でも「紙一重」はあります。それを乗り越えるのも一人一人の力なのだと思うのです。

〔生徒指導主事：木内記〕

「若人山王精神」物語その5

昨日の魁新聞の「週間魁スポーツ」に、2年生の小松朝陽君がサッカーの注目選手として紹介されていました。記事によると、先月の東京国際ユース大会で、Jリーグ選抜の一員として参加してゴールを決めたことでした。将来プロのサッカー選手として、ワールドカップで、日の丸を背負って活躍する日が来るのかもしれない。

テスト休みに入りました！

昨日から、部活動はテスト休み期間に入りました。この土日に大会がある部もありますが、明日からは、全校生徒のほとんどが勉強三昧の2日間になるはずですよ。やるべき時はやる、ということが大切です。ご家庭でも一声お願いします。